

# 新しいクリスチャンのための信仰の手引き

## 序 文

1988年の秋、教育・出版委員会が感じていたことは、教会員としての入会の準備のために役立つハンドブックの必要であった。このようなものがあれば、教団に興味を持ち、もっと多くのインフォメーションを得たいと願っている方々にも与えることが出来たのであった。

常務委員会の承認を得て、私ども、委員会が始めた仕事はまず第一に、教団の牧師たちが入会準備クラスで用いている材料を提出してくれるよう依頼したことであった。そしてさらに送られてきたすべての材料をよく調べ、その中から最も助けとなるものを選び分け、編集したのがこのハンドブックである。牧師が自ら作成したものを続いて使用することは、自由であるが（私たちはこのハンドブックを完璧なものとは思っていないので）、この手引きは、牧師が利用することが出来、そして、私たちの信仰と実践に関する標準的なガイドラインとなるひとつの手段（Tool）として提供されているのである。

特別に感謝の言葉を述べたいのは、忠実な委員会のメンバーとして多くの時間をこのハンドブックのために費やして下さった次の方々である。綾部キャシー姉（ホノルル・キリスト教会）、名幸ダリーン兄（ポールシティ・ハイランド・ホーリネス教会）、丹治ジョイス姉（ポールシティ・ハイランド・ホーリネス教会）、戸田パット姉（ホノルル・ホーリネス教会）。

そしてまた、私たちはこの委員会に材料を提供して下さったすべての牧師に感謝を表したい。

OMS 北米ホーリネス教団  
教育・出版委員会  
委員長 戸田ジョージ  
1990年1月

翻訳・細見剛正

# I . 救いの意味

このアウトラインは、神の言葉を土台としたキリスト教信仰の基本と、その必要条件をみっちり理解するために用意されたものである。バプテスマ（洗礼）を受けるため、また、教会に入会するために必要なことは、本当に新生していることであり、クリスチャンであることである。

A . なぜ、私たちすべてがイエスキリストを必要とするのか。

- 1 . 私たちはみな罪人である。（イザヤ53:6; ローマ3:23）
- 2 . 私たちはみな自分の罪のゆるしが必要である。（ローマ6:23; 5:12; 14:10; ヨハネ3:3）
- 3 . 私たちはイエス・キリストによってのみ救われる。（使徒4:12; I テモテ1:15）

B . どのようにしてキリストは私たちを救ってくださるのか。

- 1 . 私たちのために死んで下さった。（ローマ5:8; I コリント15:3）
- 2 . 私たちを神との正しい関係に入れて下さる。（I ペトロ3:18; ローマ5:10-11; ヘブル7:25）
- 3 . 私たちに永遠の命を与えて下さる。（ヨハネ6:47; 10:28; 20:31）

C . どのようにして私たちはクリスチャンになるのか。

- 1 . 聖霊によって自分の罪を示される。（ヨハネ16:8）
- 2 . 自分の罪を認めて、悔い改める。（使徒3:19; ローマ10:9-10）
- 3 . イエス・キリストを自分の救い主と信じる。（使徒16:31; ヨハネ3:16）
- 4 . 信仰によってイエス・キリストを受け入れる。（エペソ2:8-9; ガラテヤ3:26; ヨハネ1:12; ローマ5:1; 黙示録3:20）

D . どのようにして自分がクリスチャンであることを知るのか。

- 1 . 新しく造られた者として新生している。（コリント5:17）
- 2 . 神の言葉の確証を持っている。（ヨハネ5:13; ヨハネ20:31）
- 3 . 主の約束を持っている。（ヨハネ10:9; 11:26）
- 4 . 聖霊の確証を持っている。（ローマ8:16; エペソ1:13-14）

救いは神の無代価のギフトであるから、それを大切にし、救われた時と同じ心で神の側での自分の立場を育成して行くことである。しかしながら、救いはクリスチャン生活のはじまりである。それは霊的に成長して行くものであることを意味している。

# クリスチャン生活の意味

私たちが新生して経験するクリスチャン生活は、成長への過程とすることが出来る。それはイエス・キリストとの個人的な関係であって、信仰が養われていく方法を開発するよう、心を呼び覚ますものである。  
(ペテロ3:18)

A. 絶えずイエス・キリストとの個人的関係を自覚していること。

1. ぶどうの木とその枝 (ヨハネ15:1-6)

- a. イエスはいのちの関係について語っておられる。
- b. 彼はこの関係が絶対に必要であることを語っておられる。
- c. 彼はこの関係が、主のみ心を行うことのために必要であることを語っておられる。
- d. その結果として豊かな実を結ぶことを語っておられる。

2. 「キリストが私の中に生きておられる」とは、イエス・キリストと私たちとが一つであることのイラスト的な事実である。(ガラテヤ2:20)

B. 生活の霊的必要性を規則正しく満たしていくこと。

1. 日毎に神の言葉を読み、瞑想することは、霊的成長と知恵を開発して行く為に大切である。

- a. 神の言葉は導きを与える。(詩篇119:105)
- b. 神の言葉は罪より守る。(詩篇119:11)
- c. 神の言葉は必要を教える。(ヘブル4:12)
- d. 神の言葉は霊的成長を促す。(ペテロ2:2)

2. 日毎に祈りの時をもつことは、霊的に健康であるために欠くことは出来ない。

- a. 日毎に祈りの中で神を仰ぎ見ること。(詩篇5:3)
- b. 祈りはあなたの神に対する信頼を現している。(ピリピ4:6)

3. 日毎に生活をチェックすることは大切である。

- a. 神があなたの必要を探し出して下さるよう祈ること。(詩篇139:23-24)
- b. 奉仕の力は潔められた生活を必要とする。(イザヤ59:1-2)

C. 生活の中で聖霊に信頼すること。

- 1. 聖霊は信者であるあなたの中に宿っておられる。(コリント3:16-17; ローマ8:14,16; ペテロ1:2)
- 2. 聖霊は信者であるあなたに力を与える。(使徒1:8)
- 3. 聖霊はあなたを教えて、すべての真理に導かれる。(ヨハネ14:26; 16:13)

イエスは言われた。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従ってきなさい。」(ルカ9:23)。だから私たちの生活は、自分の力によるものではなく、主の力に依存するものであり、そうすることによって私たちは神の栄光を現すことが出来る。

## 弟子訓練の意味

教会はまず第一に、交わり（コイノニヤ）である。それはただ「入会する」だけでは十分ではない。ひとりびとりが与えられた賜物を用いて、この交わりに於ける責任ある務めを行うように召されているのである。次の分野はキリストの体における弟子訓練にとってなくてはならないものである。

### A．礼拝

- 1．キリスト教会の生命の中心は、礼拝にある。（詩篇29:2; ヨハネ4:24）
- 2．1週間には168時間もある。毎週の礼拝の時間を、キリストにある生活の活気に満ちた時とすること。（詩篇122:1）
- 3．礼拝は一人でも出来るが、共同の礼拝は真の必要を満たすものである。（ヘブル10:24-25）

### B．交わり

- 1．教会は信徒の交わりである。この交わりの中で、私たちはクリスチャン生活に成長し、成熟していくのである。（ヨハネ1:3,7）
- 2．正確に言えば、教会は「聖徒」の交わりである。（コリント1:2）
- 3．所属している教会の活会員であること。（コリント12:18）
- 4．教会員はクリスチャンとしての交わりを、次のことを通してエンジョイすること。
  - a．祈り：Devotion（使徒2:42）
  - b．援助：Gift（コリント8:4）
  - c．偉大な働き（ガラテヤ2:9）
  - d．福音（ピリピ1:5）
  - e．イエス・キリスト（ヨハネ1:3）

### C．聖書の学び

- 1．個人的に
  - a．こころの準備
    - (1) まず心を静めて聖霊の導きを求める。
    - (2) 読んでいる箇所が理解出来るよう、神に求めること。（詩篇119:18）
    - (3) 聖書は神の言葉<語りかけ>であることを覚えること。（ヘブル4:12）
    - (4) 祈りをもって読むことにより、み言葉から光りが与えられる。（詩篇119:130）
  - b．日常生活へのみ言葉の適用
    - (1) 心の糧として聖霊を慕い求めること。（ペテロ2:2-3）
    - (2) 日毎にそれを瞑想すること。（詩篇1:2）
    - (3) 聖書を読む時に自分自身に次のことを質問すること：
      - (a) 見習うべき模範はないだろうか？
      - (b) 従うべき命令はないだろうか？
      - (c) 要求すべき約束はないだろうか？
      - (d) 神ご自身について教えられることはないだろうか？
      - (e) 避けるべき誤りはないだろうか？
      - (f) 捨てるべき罪はないだろうか？
    - (4) 生活に適用すること。つまりそれは、主の命令に従うことである。（ヤコブ1:22）

## 2. グループで

- a. クリスマン生活の成長と実践は、神の言葉と密接に結びついている。( ペテロ2:2; ヨハネ14:23; 使徒17:11 )
- b. すべてのクリスマンは規則的にサンデー・スクール、または、聖書研究グループに出席すべきである。( 使徒5:42 )
  - ( 1 ) 聖書の教えの重要性 ( テモテ3:16-17 )
  - ( 2 ) 聖書の中で必要が示される。( ペテロ2:2-3; コリント3:1-3; ヘブル5:12-14 )
  - ( 3 ) 神の言葉を学ぶ必要 ( テモテ2:15 )
  - ( 4 ) 神の言葉を教える必要 ( マタイ28:19-20; 使徒8:4; マタイ9:35-38 )
  - ( 5 ) み言葉を教えるために他の人びとを訓練する必要 ( テモテ2:1-2 )

## D. 祈り

1. 家の中で妨げられない時間をもつことが出来る場所を見いだすこと。「あなたは祈る時、自分の部屋にはいり、戸を閉じて...祈りなさい。」( マタイ6:6 )。主の模範 ( マルコ1:35 )
2. 主を賛美することによって、心が高められるようにすること。( 詩篇100 )
3. 神の力、変わらない臨在、善意と愛 ( 神の属性 ) について思い巡らすこと。( 詩篇103 )
4. 心を調査する時をもつこと。( 詩篇139:23-24 )
5. 単純で自然な方法で、主に語りかけること。( マタイ6:5-15 )
6. 願いと共に賛美と感謝を言いあらわすこと。( ピリピ4:6 )
7. 罪を告白しあなたの必要を主に告げること。( ヨハネ1:8-9 )
8. 祈る時は、信仰をもって ( マタイ21:22 )、大胆に ( ヘブル4:16 ) み心に従って ( ヨハネ5:14 )、そして特定の人とことごとくのために。( ヤコブ4:3 )
9. 他の人のために祈ること、「執成し」( ローマ15:30; ヤコブ5:15 )。教会のため、牧師のため、そして教会の指導者のために祈ること。( テサロニケ5:25 )
10. 絶えず祈ること。( サロニケ5:17; エペソ6:18; ルカ18:1 )
11. 大声で祈ること。( 気分が散漫になることを防止する )
12. 時々静かに座って、静聴すること。( 詩篇46:10 )
13. 祈りのリストを作る。それに記入すること。神の約束を要求すること。後になって祈りが答えられたかどうかを調べてみる。( エレミヤ33:3 )
14. 祈り ( Devotion ) の時の長さ
  - a. いつも文字通りひざまずかなくてもよい。起きあがって、歩きながら....。「主の霊のあるところには、自由がある」( コリント3:17 ) を心に留めておくこと。
  - b. 祈りは最も伸縮自由の体操である。神との交わりには厳格なルールや規定などはない。( テサロニケ5:17 )
  - c. 挑戦：「あなたがたはそんなに、ひと時もわたしと一緒に目を覚ましていることができなかつたのか。」( マタイ26:40 )
15. 祈りの時
  - a. 規則正しく：「わたしはひねもすあなたに呼びわります。」( 詩篇86:3 )
  - b. 一日のはじめに ( 詩篇5:3 )
  - c. 一日の終わりに：「わたしが床の上であなたを思いだし、夜のふけるままにあなたを深く思うとき...」( 詩篇63:5,6 )
16. 他の人と共に祈ること。
  - a. 伝統的に祈りのグループが教会を支えてきた。教会の祈禱会は、教会の背後の「力」である。( 使徒4:31; 12:5 )
  - b. 「教会はひざまずきながら、動いている。」( 使徒1:14 )

## E . クリスマン・スチュワードシップ (管理精神)

クリスマン・スチュワードシップは、そもそもクリスマンは彼の主人である、主イエス・キリストのものであると言う信念から出発する。

「自分の体は、...聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。」( コリント6:19-20 )

クリスマンとしての私たちが、イエス・キリストに属しているばかりでなく、私たちの持っている...時間、才能、賜物、富もまた主のものである。管理者としての私たちは、所有者ではなく、マネージャーであり、これらの所有物を神の栄光を顕すために賢明に用いるよう、委託されているのである(詩篇24:1; マタイ25:14-30)。この神のご計画のすばらしさは、私たちは神が私たち以上に豊かなお方であるゆえに、何ひとつ良き物に欠けることがないということである。だから私たちが、与えられている時間、賜物 (talents)、財貨の一部分を神に献げることは、理性に適ったことである。(ローマ12:1; コリント8:1-5)

### 1 . 時間のスチュワードシップ

時間は神によって私たちに与えられた。神聖であって非常に貴重な財産である。だから私たちがどのようにこれを用いるかは、クリスマンとして重要なことである。祈りをもって次のことがらを考えたい。

- a . 真実な管理者として私たちは、主よりいただいた最大に尊い財産のひとつは、時間であるということを知っている。私たちすべては主にたいして申し開きをしなければならない。(ローマ14:10-12)だから私たちは時間の予定を立てることにしよう。
- b . 真実なイエス・キリストの弟子、神の管理者として、私たちは神との神聖な規則正しい約束の時を守らなければならない。だから、日毎の祈りの時 (devotional time)、定められた礼拝は、私たちの生活の中で絶対に欠かすことはできない(ヨシュア1:8; 出エジプト20:8-11; 詩篇5:3)。忠実な管理者は、神のために「忙し過ぎる」と言うことは決してない。(詩篇90:12)
- c . 主のために費やす時間にまさって、重要で深い満足を与える忠誠、または、献身はない。(コリント15:58)
- d . 神の恵みを覚えていること...「すべての恵みを心にとめよ。」そして、神の管理者として与えられた時間を気前よく、喜んで主にお返しする必要がある。(詩篇103:2; コリント10:31)
- e . クリスマン管理者であることは、神よりの賜物に特定の責任が伴っているということを知ることの意味している。私たちは神の働きのために重荷を分担していただき、イエス・キリストに仕えるために貴重な時間を投資しなければならない。弁解は神のことを軽くあしらう人々に容易に訪れる。(ルカ14:15-24)
- f . イエスは言われた。「まず神の国と神の義とを求めなさい。」(マタイ6:33)管理者として私たちは、神に対して私たちの時間の第一で、最良の部分を与えるべきである。クリスマンとして私たちが忠実で、従順な管理者生活を送る機会に恵まれているならば私たちの生活の証を通して他の人々が必ずキリストに来ることが出来るのである。

「そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、賢くない者のようにではなく、賢い者のように歩き、今の時を生かして用いなさい。今は、悪い時代なのである。」(エペソ5:15-16)

## 2. タラントのスチュワードシップ

神の管理者は、主がすべての人生に計画を持っておられることを知っている。私たちは人生の目的は、神を愛すること、そして、神と人々に仕えることによって生きることにあることを知っている。神は私たちが義務を全うするために、私たち各自にそれぞれ違った自然のタラントや人格を授けておられる。祈りをもって次のことがらを考えてみることにしよう。

- a. 本当の管理者とは、何事をするにも主のためであることを心に留めている人である。(コロサイ3:23)
- b. 神が私たちに与えて下さったどんなタラントも用いること。神は私たちに委託されたタラントについて報告するよう求められる(マタイ25:14-30; ルカ12:48)。(注: マタイにおける「タラント」は金銭を意味しているが、基本的な真理には変わりはない。)
- c. タラントは用いる時に増加する。私たちが主のために自分の才能を用いれば用いるほど私たちは霊的に成長する。パウロは言った。「敬虔のために自分を鍛錬しなさい。」(テモテ4:7-16新改訳; マタイ25:14-30)
- d. 私たちの才能やタラントが適切に用いられる時は、キリストに仕えて栄光を顕す機会であることを知ること。
- e. 本当の神の管理者は常に自発的である。私たちはイエス・キリストと教会に喜びをもって仕えるのであって、それによって何かを得るためではなく、主のために何かが出来からである。私たちの精神は次の詩篇の作者が言っているのと同じである。「わたしに賜ったもろもろの恵みについて、どうして主に報いることが出来ようか。」(詩篇116:12)
- f. 私たちは自分のからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげることによって、始めることが出来る。それこそ霊的な礼拝である。(ローマ12:1)

## 3. 財貨のスチュワードシップ

これまで見てきたように「スチュワード」とは、時間とタラント(才能)を主のために賢明に適切に使用することを意味していた。さらにそれは私たちの金銭を賢明に適切に用いることを意味している。聖書は人が物質的なものをもってする行為について、多くのことを語っている。イエスが語られた多くのたとえ話は、所有物をいかに適切に管理するかを教えている。

### a. なぜ与えるか。

- (1) 愛と同様、与えることは、クリスチャンの態度と経験の自然な表現である。「神は...賜ったほどに、...愛された」のであるから、なおさら私たちの信仰の真実性は、豊かに与えることによって証明される。パウロはコリン人に勧めて次のように言っている。与えることによって、「あなたの愛の純真さを試そうとするのである。」(コリント8:8; マタイ6:4)。
- (2) 本当の管理者は、「地とそれに満ちるものは、主のものである」ことを知っている。(詩篇24:1)だから与えることによって、私たちは神の正しい所有権を意識していることを示しているのである。管理者として私たちは、神が私たちの手に委ねておられるものを、管理(manage)するのである。
- (3) クリスチャン管理者は感謝の心から、主とその教会に対して与えるのである。私たちは主の働きを、実質のある方法で支持したいので与えるのである。そしてまた私たちは他の人々が福音を聞かなければならない深い責任を感じているので与えるのである。(民数記18:21-24)
- (4) 私たちは神の真実を試し、天の窓を開くために与えるのである。(マラキ3:10)

b. いかにかに与えるか。

- (1) 与えることは礼拝の行為である。そうすることによって、私たちは神のご支配の権威と私たちの必要に対する忠実な供給を知るからである。
- (2) 与えることは喜びをもって、惜しみなくすべきである。神は「喜んで与える人」を愛されるのである。( コリント9:6-8 )
- (3) 与えることは、まず第一に、「心から願う」Willing mind ( コリント8:12 )そして「心で決める」Willing heart ( コリント9:7 )ことによって出来る。
- (4) 与えることは霊的な犠牲を伴うはずである。マケドニア人は極度の貧しさにもかかわらず、「力以上に」施しをした。( コリント8:1-5 )彼らの施しは真に信仰によるものであった。イエスは1/2ペニーを献げた貧しい寡婦を賞賛された( ルカ21:1-4 )。それは犠牲を伴った献物であった。
- (5) 与えることは規則正しくなされるべきである。( コリント16:2 )

c. どれほど与えるべきか。

- (1) 聖書は分に応じて与えることを教えている。「収入に応じて」( コリント16:2 )。聖書的な最小量( minimum )は収入の「十分の一献金」( tithe )である。「十分の一は、...すべて主のものであって、主に聖なるものである。」( レビ記27:30; マラキ3:10; ルカ11:42 )イエスは什一の献げ物をしながら、公平とあわれみと忠実とをなおざりにすべきでないことを警告された。( マタイ23:23 )
- (2) 真の管理者として更に心に留めておくべきことは、十分の一を献げて後の十分の九の使用法も同じように大切だと言うことである。その金銭もまた委託されたものである。
- (3) 「受けるより与える方が、さいわいである」ことを発見した私たちは、生活の中心を自分自身よりキリストの側に移し変えたのである。
- (4) イエスは与えることを奨励された。「与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。」( ルカ6:38 )。ソロモンもまた同じ思想を語っている。( 箴言11:24-25 )。
- (5) 神の所有権と祝福を、意識的に認める神の真の管理者として、私たちは自発的に規則正しく、適切に、豊かに、犠牲を払って、そして喜びをもって与えることにより、信仰とは何かと言うことを証するのである。



## F . 伝道 ( Evangelism )

### 1 . 証すること ( 個人伝道 )

- a . 福音とはイエス・キリストについての「よき報のおとずれ」 ( Good News ) である。それはヨハネ 3:16; ローマ5:8に示されている。私たちは出て行って神の愛とイエス・キリストを信じる信仰によって与えられる救いを、証するために召された「証人」である ( 使徒1:8 )。
- b . 私たちは福音を自分の口と生活をもって伝えなければならない ( マタイ5:16 )。
  - ( 1 ) 証することは、福音を分け与えること ( share ) である。
    - ( a ) もし他の人々に自分の生活に起きたことを語るなら、自分自身を大いに強くし、確信を深めるのである。
    - ( b ) 神が導いて下さるから、謙遜に、自然に証をすべきである。
  - ( 2 ) 証することは、福音を生活することである。
    - ( a ) ある人のために親切な行為がなされた時は、そのひとに話をしたり、その人のために祈る時以上に効果的な時である。
    - ( b ) 困っている人を助けなければならない ( ルカ10:27-37 )
- c . 私たちが共に働き、共に祈り、共に交わり、共に神を賛美する時、主は救われる者を教会に加えてくださる。 ( 使徒2:42-47 )。
- d . 証することは、すべての人々の責任である ( 箴言11:30; ヤコブ5:20; マタイ10:7; 使徒8:4 )。

### 2 . 宣教 ( Missions:世界伝道 World Evangelism )

- a . 真実な意味で、イエスは最初の宣教師であられた。彼は父なる神によって天から地上に派遣され、全世界のために救いのグッドニュースを告げ知らせてくださった。 ( ヨハネ3:16; 20:21 )
- b . イエスは教会に福音を全世界に伝える至上命令 ( the Great Commission ) をあたえられた。 ( マタイ 28:20 )
- c . 初代の教会は、宣教のスピリットに溢れた教会 ( a missionary-minded church ) であった。 ( 使徒1:8; 13:2-3; 16:9-10 )
- d . もし教会が存続すべきであるなら、私たちは宣教に心を用いなければならない。「まぼろしがなければ、人々は滅びる。」 ( マタイ9:37-38; 箴言29:18 欽定訳 )
- e . 「火に油、そのように、教会に宣教」ゆえに、宣教のため祈り、サポートすることが大切である。

## ．教会員であることの意味

救いが実際的な目的のためにクリスチャン生活の始めであるとしたら、教会に入会することは、イエス・キリストに奉仕することの始めを意味している。ゆえに、私たちはこの部分では、教会の性質、教会員の特権と責任、そして教会の聖礼典について学ぶ。

### A．教会

- 1．教会は私たちの主によって確立された交わりである。(マタイ16:18)主は教会のかしらであり、教会が存在する理由である(エペソ1:22-23; 5:23; コロサイ1:18)。
- 2．教会はバプテスマを受けた信徒の交わりである。(使徒2:41,47; ヨハネ1:3,7; ヘブル10:24-25)
- 3．教会はクリスチャンとして信徒が成長できる交わりの場である。(ペテロ3:18; 使徒2:42,46; エペソ5:1-2; 4:1-16)
- 4．教会は信徒がそれを通して、施し奉仕することの出来る交わりである。(コリント3:9; 12:12-31; ピリピ4:15-16)
- 5．教会は信徒がそれを通して、福音をさらに効果的に広めることの出来る交わりである。(マタイ5:16; 使徒5:41-42; 8:4)

### B．教会員であることの特権

- 1．教会員は確立された教会の家庭をもっている。(使徒2:41-47; 4:32-35)
  - a．教会員は親しい交わりを楽しんでいる。
  - b．教会員は必要な時に霊的な援助を受ける。
  - c．教会員は計画された礼拝、学び、奉仕を通して成長するよう助けを受ける。
- 2．教会員は礼拝することにおいて助けを受ける。
  - a．共同礼拝の経験において。(ヘブル10:24-25)
  - b．霊とまことをもって神を礼拝することにおいて。(ヨハネ4:24; 詩篇121:1-2; 122:1-9)
- 3．教会員は聖書の教えを受ける。
  - a．聖書は教えの大切なことを語っている。(テモテ3:16-17)
  - b．私たちは聖書によって確立される必要がある。(ペテロ2:2-3; コリント3:1-3; ヘブル5:12-14)
  - c．私たちは神の言葉を学ぶべきである。(テモテ2:15)
  - d．私たちは神の言葉を教えなければならない。マタイ9:35-38; 28:19-20)
  - e．私たちはみことばを教えるために他の人を訓練すべきである。(テモテ2:1-2)
  - f．教会はサンデー・スクール、礼拝、週間の集会、そして聖書研究クラスにおいて聖書を教える。
- 4．教会員は有効的に奉仕するために、訓練と機会を与えられる。
  - a．交わりのグループ、委員会、執事会を指導することにおいて
  - b．それぞれ違った人々と共に働くことにおいて
  - c．神が与えて下さった賜物を用いることにおいて
  - d．人々をキリストに導き、獲得することにおいて
  - e．宣教プログラムの拡大されたビジョンとそれを力強くサポートして行くことにおいて

### C. 教会員であることの義務

1. 私たちは規則正しく、すべての礼拝や祈祷会に出席しなければならない。クリスチャン生活はひとりだけで生きられるものではない。
2. 私たちは日毎に、教会、牧師、指導者、教会員のため祈らなければならない。( テサロニケ5:17,25; エペソ6:19; ヤコブ5:16; マタイ18:19-20 )
3. 私たちは誠実に、規則的に、収入に応じて献げなければならない。( コリント8:12; 9:6-8; 16:2; マラキ3:10; ルカ11:42 )
4. 私たちは喜びと共に、他の人々の重荷もシェアしなければならない。( ガラテヤ6:2,10; ヤコブ5:13-16 )
5. 私たちは主と教会に仕えなければならない。
  - a. 真の信仰は奉仕の中に現れるものである。( ヤコブ2:14-20 )
  - b. どの人もキリストの体を建てるために用いられるタラント、または才能をもっている。
    - ( 1 ) ミュージック：クワイヤー、指揮者、ソロイスト、伴奏者。
    - ( 2 ) 事務：タイプライター、印刷、宛名印写印器、発送。
    - ( 3 ) サンデー・スクール：教えること、補佐すること、記録を取ること、教材。
    - ( 4 ) 礼拝：アッシャー、司会、グリーター、生花、ベビーシッター。
    - ( 5 ) 教会堂維持：木工、塗装、清掃、ガーデニング。
    - ( 6 ) 訪問：サンデー・スクールの生徒と家庭、隣人、来会者、病者、困窮者。
    - ( 7 ) 委員会：執事会、理事会、交わりのグループ。
6. 私たちはどの分野で奉仕すべきかを知って、教会献身すること。

### D. 教会の聖礼典

キリスト教会にはただ二つの聖礼典があり、それは、バプテスマ(洗礼)と聖餐式とである。いずれもキリストによって制定され、命令され、使徒行伝の中に行われ、書簡の中に説明されているので大切である。

1. 信じる者のバプテスマ。
  - a. その意義は何か。
    - ( 1 ) キリストご自身もバプテスマを受けられた。( マタイ3:13-15 )
    - ( 2 ) 主の至上命令もそれを含んでいる。( マタイ28:18-19 )
    - ( 3 ) 使徒たちもそれを行い、奨励した。( 使徒2:28 )
    - ( 4 ) 教会は常にそれを守ってきた。( 使徒8:23 以下; 10:44-48; 16:31-33; 18:8 )
  - b. バプテスマを受けるのはだれか。
    - ( 1 ) 弟子( マタイ28:19 )
    - ( 2 ) 信じる人々( 使徒2:41; 8:12; 35-38; 16:33-34 )
    - ( 3 ) 聖霊を受けた人々( 使徒10:44-48 )

c . バプテスマは何を意味するか。

( 1 ) 内的きよめのしるし ( 使徒2:28; コロサイ2:8-10 )

( a ) バプテスマは、思念のきよめ、動機の純粋化、キリストの力による罪の浄を表している。

( b ) それは公にキリストを信じる信仰を告白し、証することである。

( c ) それは内的な恵みの、外的な表現である。

( d ) それはいのちの新しさに対する証である。( ガラテヤ5:22 )

( 2 ) キリストとひとつに結ばれること。

( a ) 死

( b ) 葬り

( c ) 復活 ( ローマ6:3-5、11; ガラテヤ2:30; 3:27; コロサイ3:1 )

( 3 ) キリストとひとつに結ばれるしるし ( ガラテヤ3:26-28 )

( 4 ) かしらであるキリストに対する明け渡し、服従、謙遜のしるし ( マタイ28:18-9、3:13-17 )

d . どのようにバプテスマを受けるか。

( 1 ) バプテスマの様式 ( modes )

( a ) 滴礼 : Sprinkling

( b ) 撒水礼 : Pouring、または注水礼 : Effusion

( c ) 浸礼 : Immersion

( 2 ) 浸礼は二つの真理を表している。

( a ) 水の中に入ることは、古い人と罪の支配に対する死を示している。

( b ) 水から上がるのは、生命の新しさと死人の中からの復活を表している。

( 3 ) 北米ホーリネス教団は、浸礼の様式が聖書的なバプテスマの型を描写していると考えますが、しかし、教団では、滴礼、浸礼いずれも認めている。更に教団では教会員になる前にバプテスマを受けなければならないことを認めている。

2 . 聖餐式 / 主の晩餐 : Communion/The Lord's Supper

a . 旧約聖書の過越祭 : Passover

( 1 ) 出来事 ( 出エジプト12:5-10 )

( 2 ) その意義

( a ) エジプトの奴隷の束縛から救い出されたことを覚えるため。

( b ) 霊的束縛からの救い主、解放者、キリストを示すため。

b . 新約聖書の平行的出来事 : 主の晩餐

( 1 ) それは何であったか。

( a ) 記念の食事であった。( ルカ22:19-20 )

( b ) キリストのいのちに私たちが与っていることを記録させるものであった。( コリント10:16; ガラテヤ2:20 )

( c ) パンはキリストのからだである。

( d ) 杯は流された血による罪の赦しときよめのしるしである。

( e ) 主の再臨をいつも思い起こさせるものである。( コリント11:26 )

( f ) 献身の行為である。

( 2 ) だれが聖餐に与るのか。

( a ) すべての信徒は与ることが出来る ( 使徒2:42; コリント11:22-26 )。

( b ) 私たちは信仰と知識を持ち、罪の告白をしなければならない。信徒の間に破壊された未解決のままの人間関係があってはならない。( コリント11:27-29 )

## ．靈的賜物の発見

いつも「賜物」という主題に話が及ぶと、私たちは深い興味を覚えるものである。それは私たち各々の賜物は何なのかを知りたいからである。私たちの靈的賜物を発見するのに重要なことは、私たちが自分の価値、つまり別の言い方をすれば、「私は重要なのだ」と感じる事、神が人格としての私の上に御手を置いておられると感じることである。そこで私たちは自分自身が「何が私の靈的賜物なのか」、「どうしたら私の靈的賜物を発見できるか」と問いただしているのを発見するのである。

A．靈的賜物とは何を意味するのか。

- 1．私たちひとりびとりは特定の賜物を持っている。(エペソ4:7; ローマ12:4-6; コリント12:4)
- 2．それぞれの賜物には目的がある。(エペソ4:11-12; ローマ12:6以下; コリント12:7)
- 3．靈的賜物は必ず...のためである。
  - a．他の人々の益
  - b．神の栄光
  - c．教会を建て上げる

B．どうしたら自分の靈的賜物を発見できるか。

- 1．探し求めること。
- 2．自分以外のある人がそれを見つけて知らせてくれる。あなたがいつもお世辞と思っていたことが、「ここにあなたの靈的賜物がありますよ!」と言う神のあなたに対する語りかけであるかも知れない。
- 3．あなたがある賜物を持っていると信じておられるなら、それを用いてみることである。賜物は神が与えられたものであるから、私たちはそれを神の栄光とキリストの体を建て上げるために用いるべきである。

C．聖靈の賜物

靈的賜物には一般的に二つの分類がある。語る賜物(みことばのミニストリー)と奉仕する賜物(奉仕のミニストリー)である。次の賜物のリストは詳細なものではない。パウロは二つの違ったリストを私たちに残しているが、部分的なリストは、ローマ12章とIコリント12章である。しかし、これらの賜物は、聖靈によって信徒全体に与えられた賜物の代表的なものであることは確かなことである。

賜物	目的	説明
預言	神の啓示の告知	未来と現在に関する神のみ心を他の人々に啓示する能力（ローマ12:6; コリ12:10,14:3）
教える	教訓、みことばの明確な解釈	聖霊によって与えられた知恵を用いてはっきりと真理を伝達する能力（ローマ12:7）
信仰	ビジョン、可能にすること	必要を見、神はこれを満たして下さると信じる能力（コリ12:9）
知恵	洞察力	神の言葉の真理を具体的な状況に対して实际的に適応する能力（コリ12:8）
知識	理解力	神の言葉の真理を組織化する能力（コリ12:8）
霊を見分ける	保護	神からのもの（真理）とサタンによる惑わし（誤謬）を区別する能力（コリ12:10）
慈善	「受けるに値しない」者に対する愛の表明	聖霊に感動された愛の行為をもって、人の必要に対して敏感に応答する能力（ローマ12:8）
勧め	力づけること、慰め	励ましを与え、神のみ心を行うよう動機付けを与える能力（ローマ12:8）
寄付	神の働きへの促進	惜しみなく喜びをもって物的資源を与える能力（ローマ12:8）
指導	方向を示すこと	会衆を司り、他の人々の霊的成長を助けることによって働きの方角を決める能力（ローマ12:8）
管理	組織化すること	組織化し、キリストの体の構成員を効果的に用いる能力（コリ12:28）
奉仕	奉仕すること	人々を霊的に強くする方法で、キリストの体の目に見える必要に奉仕する能力（ローマ12:7,28）
癒し	回復	神のちからにより、聖霊が付与した信仰を用い病める人を癒す能力（コリ12:9,29）
力あるわざ（奇跡）	特別なしるし	超自然的なことをなすとげる神の器となる能力（コリ12:10,28）
異言	個人的な啓発	かつて学んだことのない言語を話す能力（コリ12:10,28）
異言の解釈	異言の賜物への補助	聖霊が付与する啓示により、異言の発声を解釈するのに助ける能力（コリ12:10）

